

次期京都市基本計画説明資料

政策分野 < 国際化 >

1 序

- 1 - 1 京都市基本構想における関連記述 1P
- 1 - 2 現行京都市基本計画に掲げた政策 2P
- 1 - 3 これまでの主な取組 3P

2 次期京都市基本計画策定に向けた論点 5P

- 2 - 1 論点1 現状と課題 6P
- 2 - 2 論点2 政策の基本方向 8P
- 2 - 3 論点3 市民と行政の役割分担と共汗 12P
- 2 - 4 論点4 10年後に目指すべき姿 14P

3 参考資料

- 3 - 1 現状分析関連データ 18P
 - ・客観データ
 - ・市民の声
 - ・関係団体意見等
 - ・各区基本計画策定に当たって現時点で出された課題
- 3 - 2 主な分野別計画の概要 31P
- 3 - 3 融合委員会ワークショップ結果 32P

1 序

1 - 1

京都市基本構想における関連記述

～すべてのひとがいきいきとくらせるまち～

国籍や民族，生まれや生い立ちに関係なく，すべてのひとが自分の居場所を確認し，自己の資質を十分発揮しつつ，いきいきと活動できる場所と機会に恵まれたまちをめざす。

～活力あふれるまち～

まちがにぎわい，若いひとたちがいきいきと学び働ける場が増えるとともに，世界のひとびとがこの地に集まり，ここを舞台にみずからの能力を十分発揮できる機会も増える。



1 - 2 現行京都市基本計画に掲げた政策

～ひとりひとりが個人として厚く尊重される～

国籍や民族，生まれや生い立ちに関係なく，すべてのひとがいきいきとくらすまちをめざす。

～国内外との多彩な交流を行う～

京都が培ってきた伝統や文化を生かしながら，世界との自由な交流により平和を希求しつつ，新たな文化を創造する文化首都であり続けるため，姉妹都市交流や留学生交流など市民ひとりひとりが主役として活躍する多彩な国際交流活動やそれを支えるまちづくりを進めるとともに，地球規模の問題や歴史都市としての共通の課題の解決のため，京都の特性を生かした国際協力を推進する。



1 - 3 これまでの主な取組

姉妹都市交流や歴史都市連盟の運営，パ・トナ・シティの創設など多彩な国際交流活動の推進

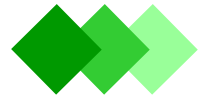
姉妹都市名(提携年)	最近の主な交流内容
パリ(昭和33年)	「相国寺・金閣・銀閣名宝展」(パリ)開催<H20> 「芸術都市パリの100年展」(京都市美術館)開催<H20>
ボストン(昭和34年)	「日本青少年野球交流プログラム」実施(ボストン<H20>, 京都<H21>) アメリカ文化紹介事業「ボストンの夕べ」(京都駅ビル)開催<H21>
ケルン(昭和38年)	40周年を記念し, 両市で芸術家交流展を開催<H15>
フィレンツェ(昭和40年)	「フィレンツェ～芸術都市の誕生展」(京都市美術館)開催<H17>
キエフ(昭和46年)	30周年記念 文化施設団派遣, ウクライナ民族音楽団の受入<H13>
西安(昭和49年)	JICAのプログラムを活用した西安市の大気環境改善に向けた技術協力<H20～>
グアダラハラ(昭和55年)	「竹太鼓公演」(グアダラハラ)開催, 「マリアッチ公演」(京都駅ビル)開催<H12>
ザグレブ(昭和56年)	20周年記念 市民団体と共に文化施設団を派遣<H18>
プラハ(平成8年)	京都市交響楽団とプラハ交響楽団が姉妹オーケストラ盟約を締結<H17>



世界歴史都市連盟	<p>歴史都市という共通の絆で結ばれた都市が、将来にわたって日常的な交流を促進するために平成6年に設立された組織。会長は京都市長であり、事務局は京都市。</p> <p>会員都市84都市(55カ国)。原則2年に1回の世界歴史都市会議を開催。平成22年度は奈良市にて開催。</p>
パートナーシティ提携	<p>民間レベルでの交流を主体とし、「文化・芸術」、「学術研究・教育」、「経済」などの分野を特定した都市間交流</p> <ul style="list-style-type: none">・晋州(大韓民国) <学術・教育分野,平成11年4月提携>・コンヤ(トルコ共和国) <文化・芸術分野,平成21年12月提携>

外国籍市民施策懇話会の創設・運営，医療通訳派遣事業の開始など多文化共生社会の推進

留学生国民健康保険料補助事業の開始，留学生優待プログラムの創設など留学生施策の充実



2 次期京都市基本計画策定に向けた論点

論点1 現状と課題

活かすべきチャンス（追い風）は？ 放置できない問題（向かい風）は？
活用できる資源（強み）は？ 克服すべきこと（課題）は？

論点2 政策の基本方向

今後10年間の基本的考え，価値観は？

論点3 市民と行政の役割分担と共汗

政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

論点4 10年後に目指すべき姿

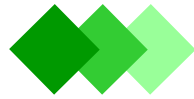
10年後のあるべき姿やそれが達成された状況を図る指標・目標値は？



2 - 1

論点1 現状と課題

活かすべきチャンス（追い風）は？ 放置できない問題（向かい風）は？
活用できる資源（強み）は？ 克服すべきこと（課題）は？



2 - 1 論点1 現状と課題 < 現状分析 >

外部環境分析（施策を推進するうえで，追い風又は向かい風となる変化や社会的な状況）	
追い風	向かい風
国際会議数が増加している 国において2020年を目途に30万人の留学生受入れを目指す計画がある インターネットの普及をはじめ，社会，経済，文化などあらゆる面において，グローバル化が進展している	近隣国との国際会議誘致競争が激化している
京都の現況分析（他都市等と比較して，京都の現況が優位又は劣位である事項）	
京都の強み	京都が解決・克服すべき課題
在日韓国・朝鮮の方をはじめ，多くの国籍の外国籍市民が暮らしている ノベル賞受賞者などを輩出した優れた大学が多く，留学生にとって魅力的である 海外に誇れる日本の優れた伝統文化，芸術を有している 姉妹都市や国際交流団体が多く，民間交流の機会が多い	留学生の就職の機会の増加 言葉や文化の相違に起因した課題を解消するための支援 国際交流・協力を推進する人材の育成



2 - 2

論点2 政策の基本方向

今後10年間の基本的考え，価値観は？



< 現在の方向性 >

京都市国際化推進プラン 概要

平成20年12月策定

国際化の基本的な考え方

- 1 市民や来訪者がより心豊かに暮らせる社会の実現
- 2 世界の中の京都としての発展
- 3 平和で持続可能な世界の実現に向けた貢献



国際化の目標と主な取組

- 1 **世界がときめくまち・京都** ~世界の人々をひきよせる京都の魅力の向上と発信~
 - ・留学生倍増（4,500人→1万人）に向けた取組
 - ・京都の魅力の世界に伝える「京都市名誉親善大使」の創設
 - ・観光ボランティアの育成，観光案内所や観光イベント等への派遣実施
 - ・飲食店メニュー等の多言語化や繁華街等での多言語化の推進
 - ・国立京都国際会館の拡充・整備

- 2 **世界とつながるまち・京都** ~市民主体の国際交流・国際協力の推進~
 - ・JICA等の国際協力機関と連携した技術協力の推進
 - ・歴史都市連盟の活動における市民参加の拡大
 - ・青少年対象の国際学術コンテストなど国際的な催しへの積極的な参画
 - ・ホームステイ，ホームビジット等での外国人と直接触れ合う機会の促進

- 3 **多文化が息づくまち・京都** ~外国籍市民が暮らしやすく，活躍できるまちづくりの推進~
 - ・日本語ボランティアに対する活動支援の充実
 - ・教育や子育てに関する情報の多言語化の推進
 - ・災害ボランティア通訳システムの整備
 - ・行政・大学等が提供する市内の留学生向け住戸2,000戸の実現



プランの推進

- 1 市民，民間団体等との協働
- 2 多様な主体間の連携，協働
- 3 京都市国際交流会館における事業の充実
- 4 庁内体制の強化と人材の育成・確保
- 5 プランの進行管理



2 - 3

論点3 市民と行政の役割分担と共汗

政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？



< 市民による国際化の推進事例 >

・市民主体の国際交流

市民や民間の交流団体が実施する国際交流事業を行政としてサポートする。また、行政が実施する交流事業に多くの市民の参画を得る。

(例)市民自身の手による交流活動(市民による文化芸術活動を姉妹都市にて発表など)

・共生社会を促進していくための担い手育成事業

在住外国人をはじめ、異なる文化背景を持つ人々との相互交流、相互理解の促進を図ることを目的として、ボランティア活動の機会や人材の育成に対するサポートを行う。

(例)市内小中学校における国際理解教育の授業への留学生の講師派遣
日本語ボランティアによる日本語クラスの開催

・異文化理解・多文化共生社会への促進事業

異文化理解を深める交流活動や、多文化共生社会へのまちづくりを推進。また、在住外国人を災害弱者にしないため、災害時通訳・翻訳ボランティアや避難所運営訓練等、災害時のサポート体制を敷いている。

(例)外国籍市民が、災害時に必要な支援を受けることができる災害ボランティアバンクの構築及び運用
外国の食文化、芸能を紹介するイベントの開催



2 - 4

論点4 10年後に目指すべき姿

10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？

指標とは・・・

10年後の京都の姿を市民と行政が共有するための目じるし
市民と行政が共に目指す京都の姿を，言葉や数値で表すもの
目標値は，数値で表した指標の10年後に目指すべき水準



< 主な指標 > 分野別計画に掲げる指標

指標	目標値 (目標年次)	現況値 (プラン策定時)
留学生倍増	1万人 (29年度)	4500人
行政・大学等が提供する市内の留学生 向け住戸	2000戸 (29年度)	約950戸



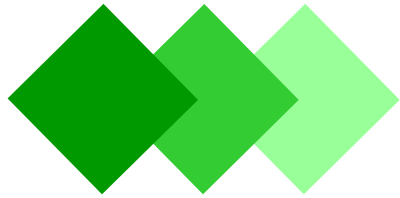
政策評価で用いている指標

多文化共生社会の実現

指標	現況値（20年度）
審議会等への外国籍市民委員の参加数<P23>	19人
京都地域留学生住宅保証制度利用者数	544人
京都市外国人登録の入国及び転入者数	6,159人
医療通訳派遣事業の派遣依頼人数<P24>	1,242人

多彩な国際交流の推進

指標	現況値（20年度）
（財）京都市国際交流協会のセミナー・イベント・講座への参加者数	26,641人
京都市国際交流会館来館者数<P20>	263,120人
留学生数<P25, P26>	4,688人
世界歴史都市連盟加盟都市数<P27>	78都市
京都国際交流団体連絡協議会（A.I.E.K）加入団体数	155団体

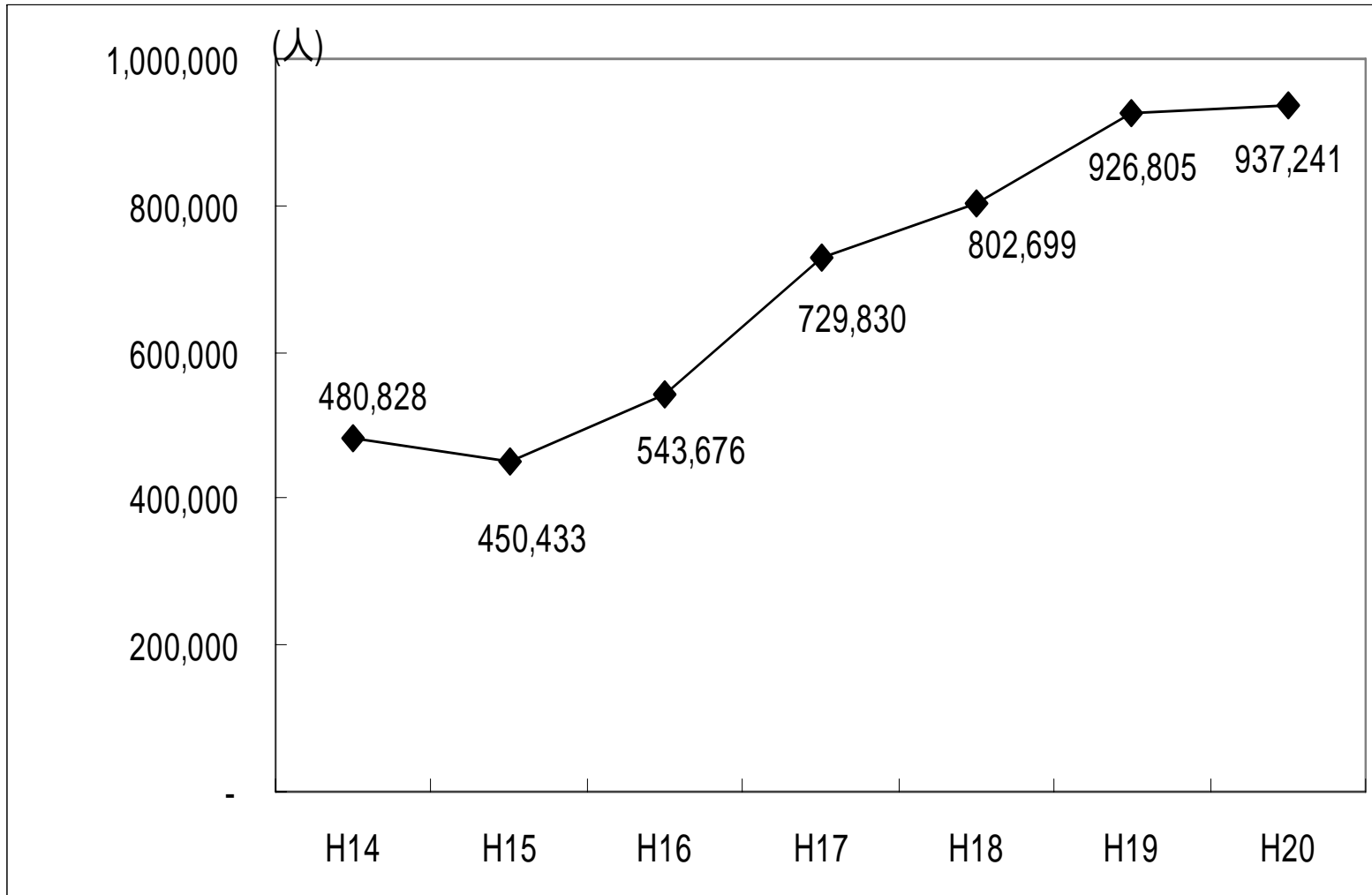


3 参考資料

- | | | |
|-------|----------------|-----|
| 3 - 1 | 現状分析関連データ | 18P |
| 3 - 2 | 主な分野別計画の概要 | 31P |
| 3 - 3 | 融合委員会ワークショップ結果 | 32P |

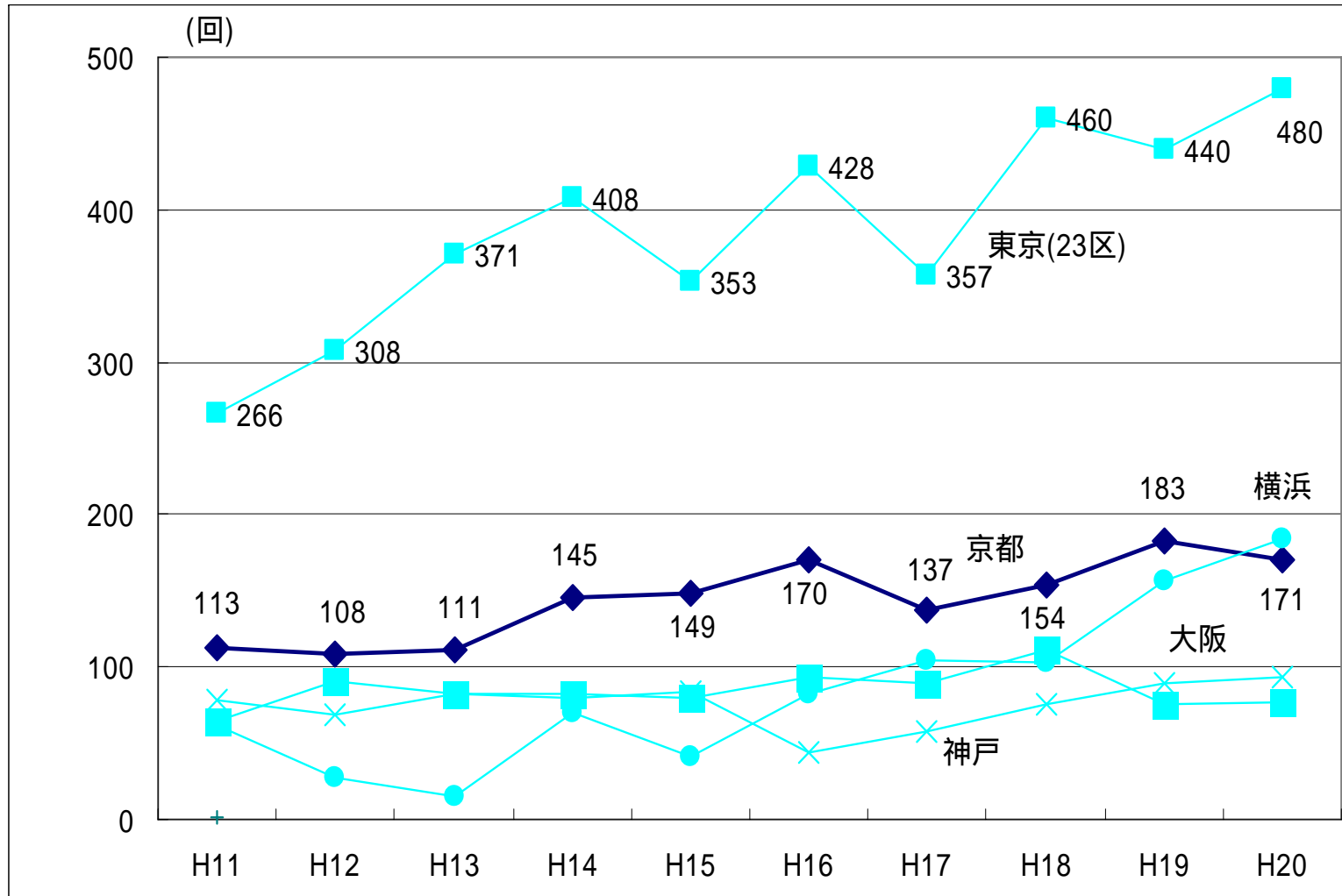


海外から京都市を訪れた宿泊数の推移



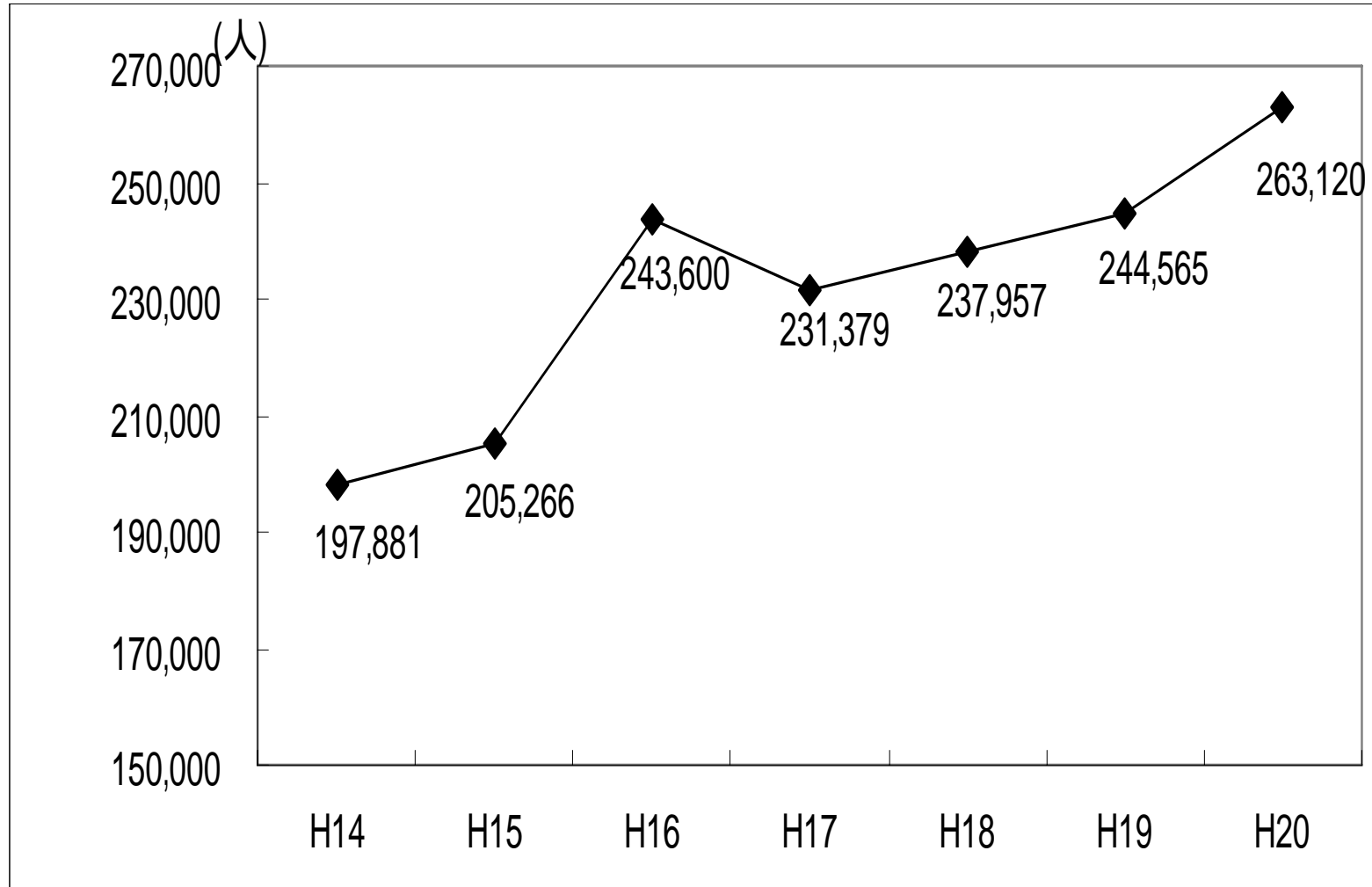


国際コンベンション開催件数大都市比較(平成20年)及び京都市における開催推移



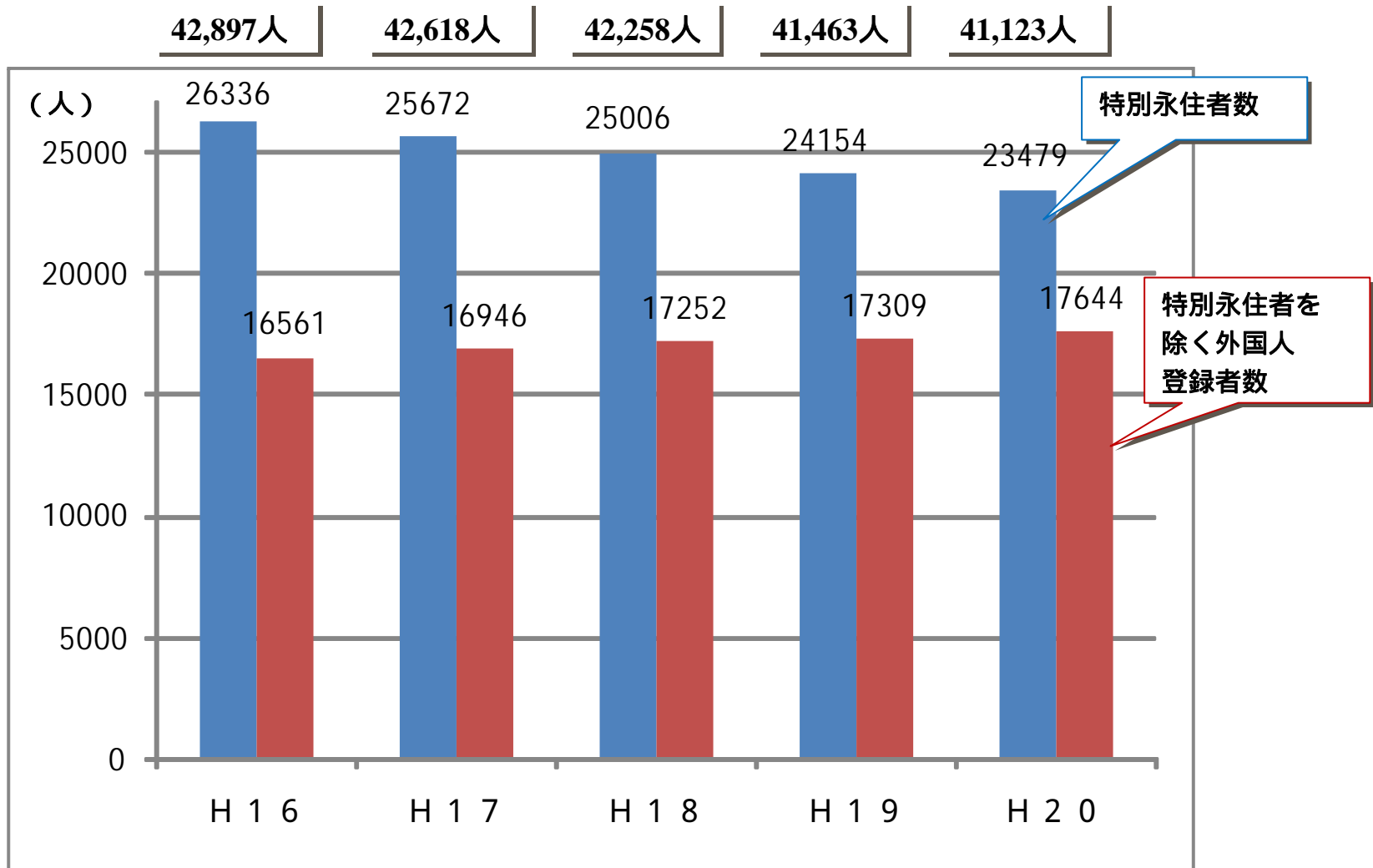


京都市国際交流会館来館者数の推移





京都市における外国人登録者数とその内訳の推移



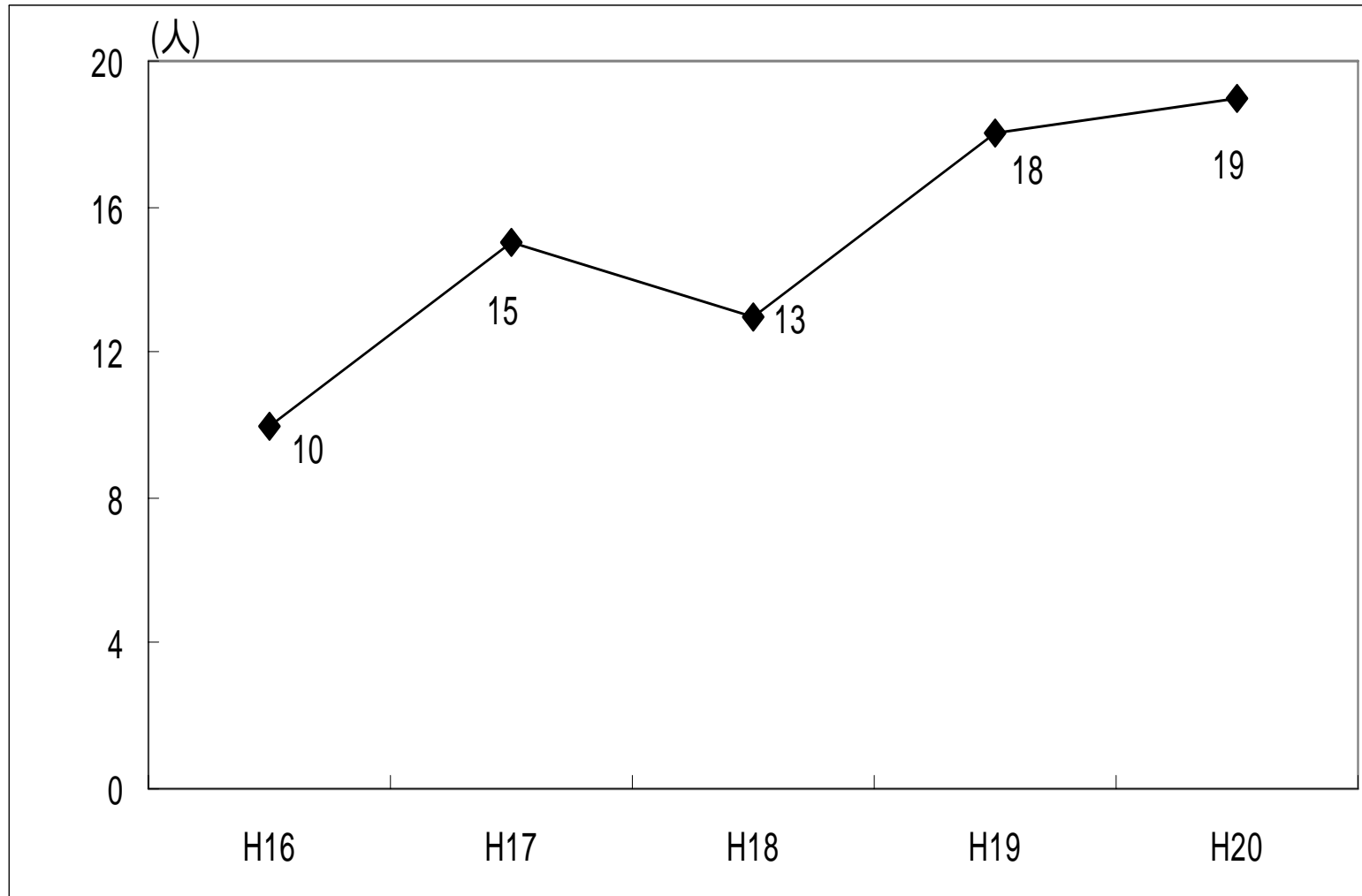


京都市における国籍別外国人登録者数

(平成20年12月末現在)								(単位：人)
国籍(出身地)	登録者数	国籍(出身地)	登録者数	国籍(出身地)	登録者数	国籍(出身地)	登録者数	
韓国又は朝鮮	26,272	ミャンマー	38	マダガスカル	6	セルビア・モンテネグロ	2	
中国	8,630	ベルギー	27	マリ	6	パラグアイ	2	
米国	1,000	シンガポール	26	アフガニスタン	5	ルクセンブルク	2	
フィリピン	923	トルコ	26	ウズベキスタン	5	イエメン	1	
英国	315	アイルランド	23	オマーン	5	ウガンダ	1	
フランス	313	フィンランド	23	ドミニカ共和国	5	エクアドル	1	
タイ	299	パキスタン	22	ベネズエラ	5	エルサルバドル	1	
カナダ	258	カンボジア	21	ホンジュラス	5	カザフスタン	1	
インドネシア	234	ナイジェリア	21	アンゴラ	4	キプロス	1	
オーストラリア	231	ポーランド	21	ガーナ	4	グアテマラ	1	
インド	193	ラオス	20	カメルーン	4	コートジボワール	1	
ドイツ	190	ウクライナ	19	ギリシャ	4	サウジアラビア	1	
ベトナム	173	コロンビア	17	キルギス	4	サモア	1	
ブラジル	160	ハンガリー	17	セルビア	4	タジキスタン	1	
ロシア	131	オーストリア	16	タンザニア	4	トリニダード・トバゴ	1	
ネパール	105	デンマーク	16	チュニジア	4	ニカラグア	1	
イタリア	103	南アフリカ共和国	14	トンガ	4	バーレーン	1	
マレーシア	99	アルゼンチン	13	エストニア	3	パレスチナ	1	
エジプト	91	ジャマイカ	12	キューバ	3	フィジー	1	
ニュージーランド	84	ブルガリア	12	ザンビア	3	ベリーズ	1	
モンゴル	70	アルジェリア	10	スロバキア	3	マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	1	
ペルー	69	エチオピア	10	ブータン	3	マルタ	1	
スウェーデン	68	スーダン	10	ブルキナファソ	3	ラトビア	1	
スリランカ	66	ポルトガル	10	ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	3	レバノン	1	
イラン	65	モロッコ	10	モルドバ	3	無国籍	13	
バングラデシュ	58	チェコ	9	アイスランド	2			
スペイン	53	コンゴ民主共和国	8	アゼルバイジャン	2			
イスラエル	44	ポリビア	8	アルバニア	2			
メキシコ	42	ヨルダン	8	クロアチア	2			
ルーマニア	42	チリ	7	シリア	2			
オランダ	41	ケニア	6	スロベニア	2			
スイス	39	ノルウェー	6	セネガル	2			
						合計	41,123	

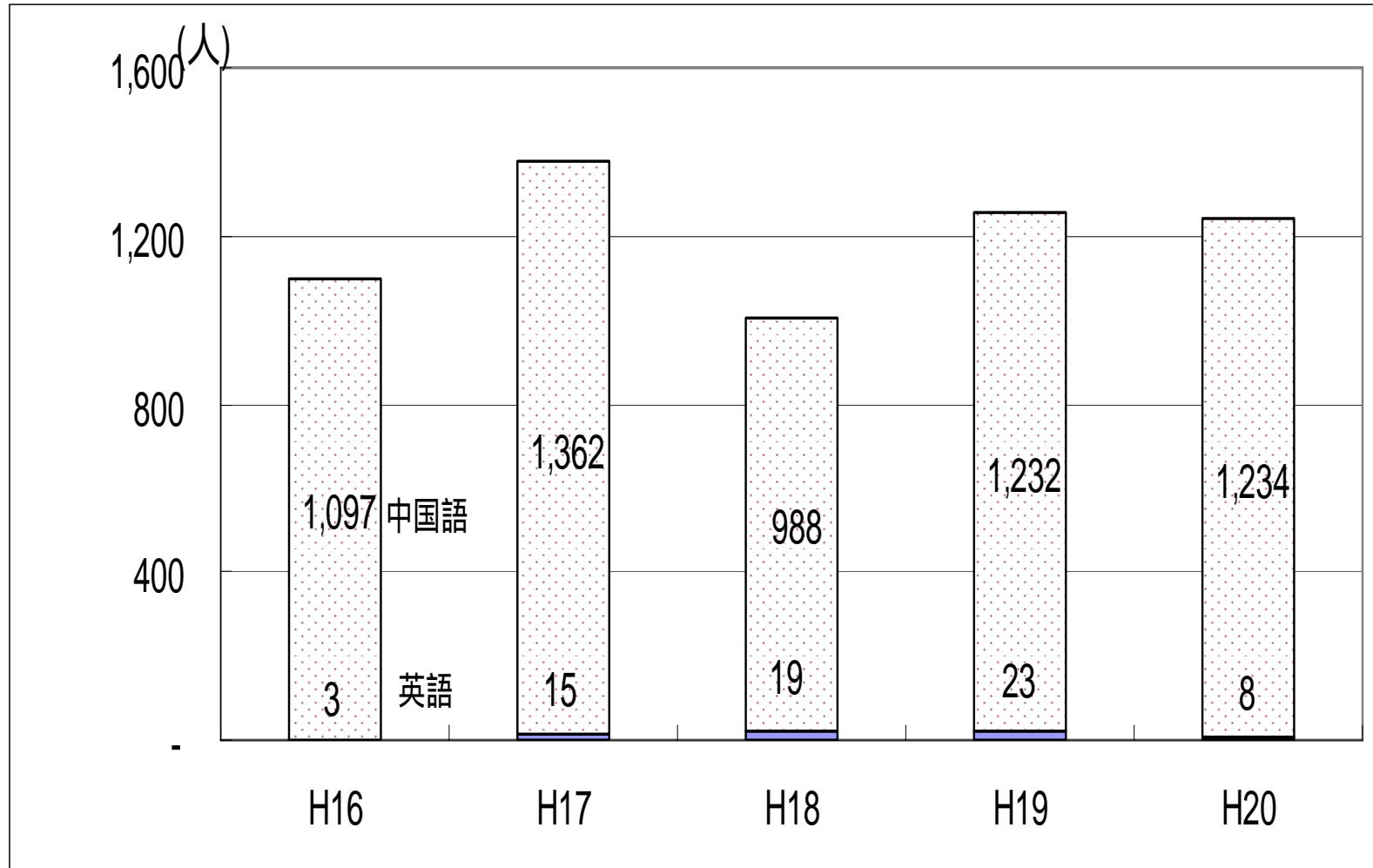


審議会等への外国籍市民委員の参加数の推移



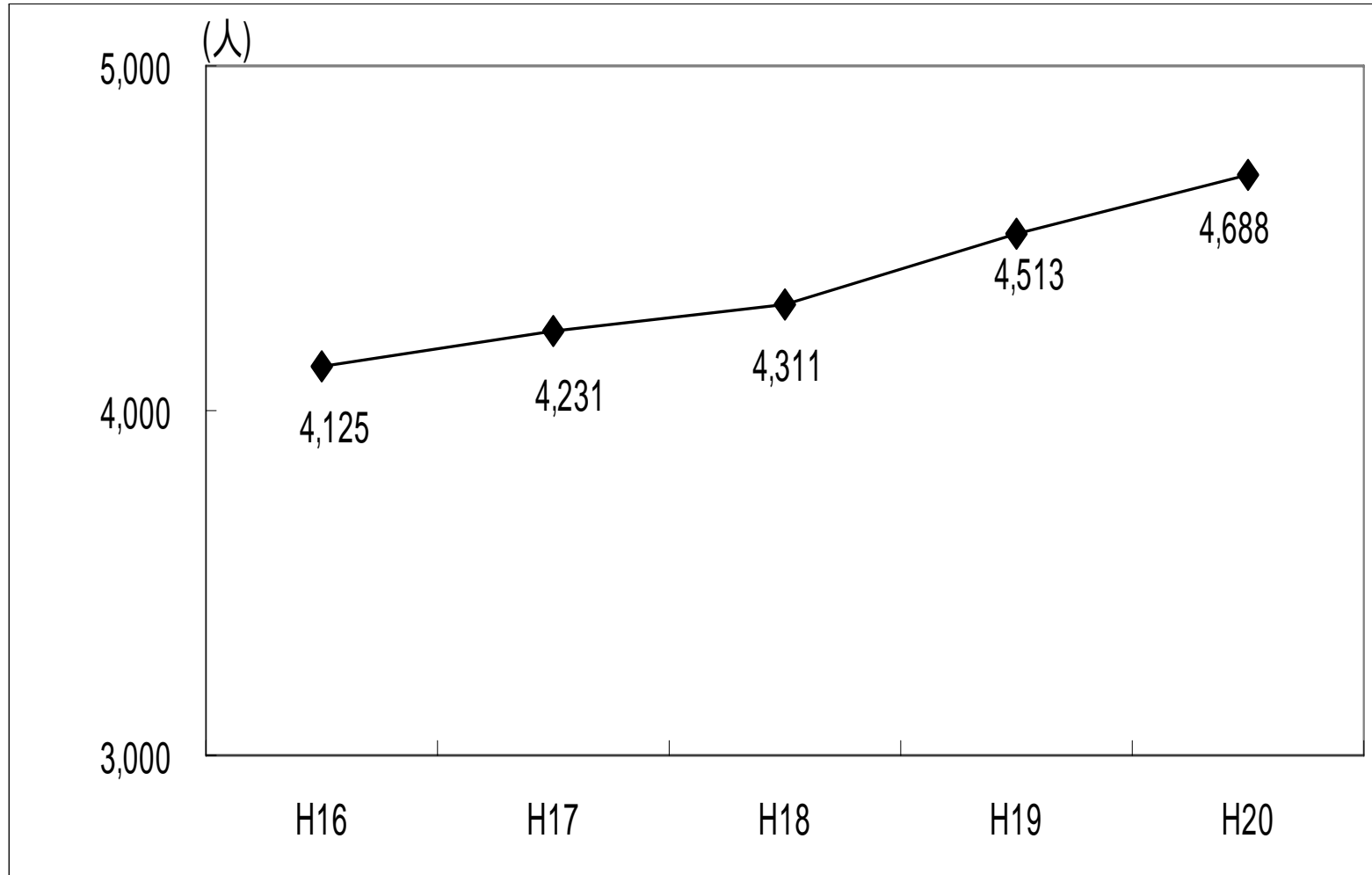


医療通訳派遣事業利用実績の推移





留学生の推移



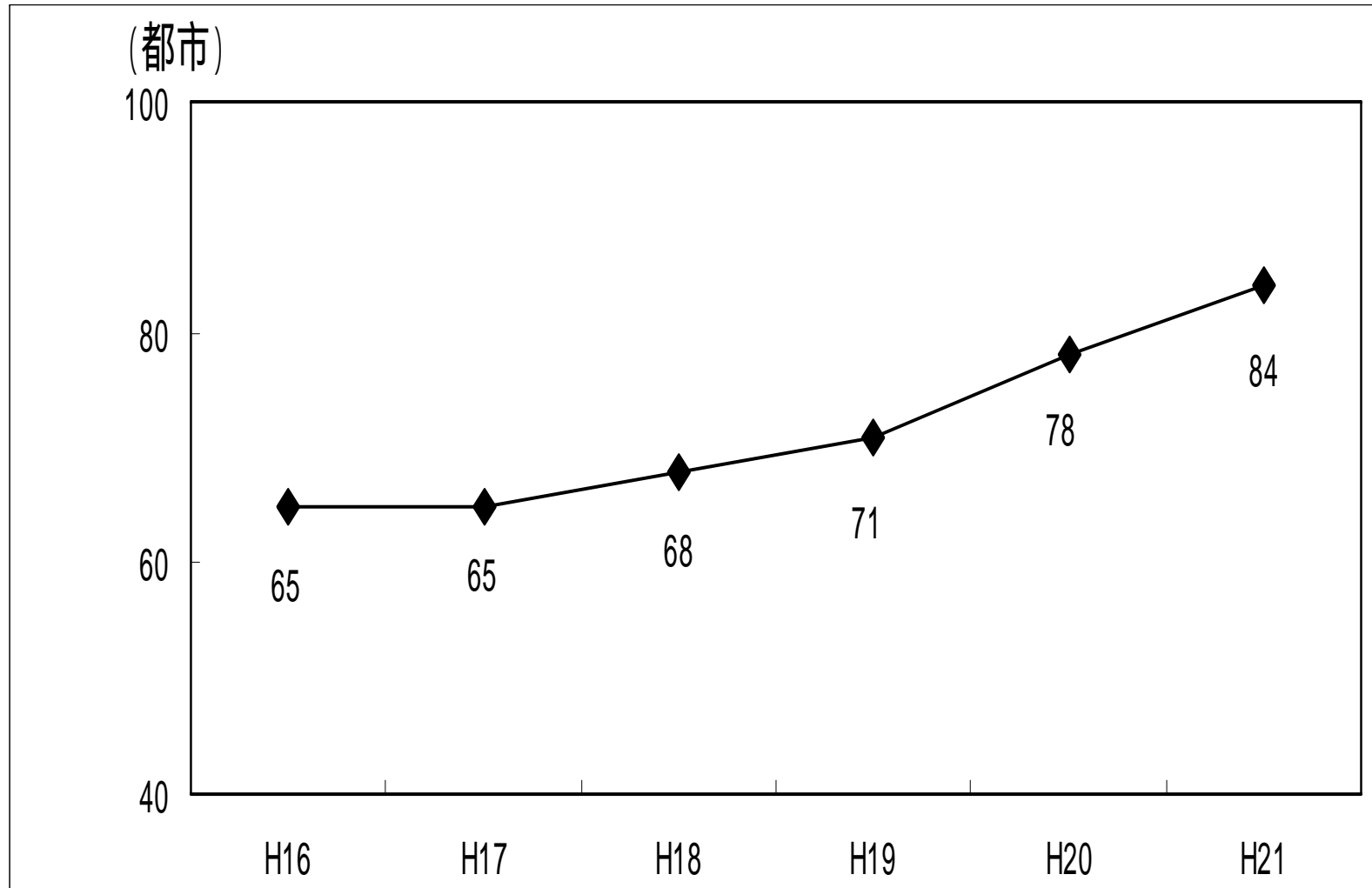


国籍別京都市在学留学生数

(平成20年5月1日現在)							
国籍	総数	国籍	総数	国籍	総数	国籍	総数
西ヨーロッパ		東ヨーロッパ		アフリカ州		東南アジア	
アイスランド	3	ポーランド	9	エジプト	15	ミャンマー	36
フィンランド	8	ハンガリー	7	スーダン	2	タイ	108
スウェーデン	13	ルーマニア	2	チュニジア	4	マレーシア	62
ノルウェー	2	ブルガリア	8	アルジェリア	1	シンガポール	12
デンマーク	1	ロシア	20	マダガスカル	1	インドネシア	81
アイルランド	3	アルバニア	1	ケニア	6	フィリピン	32
イギリス	24	ウクライナ	5	タンザニア	2	韓国・朝鮮	833
ベルギー	5	ウズベキスタン	10	ナイジェリア	4	モンゴル	47
ルクセンブルク	2	カザフスタン	1	ガーナ	1	ベトナム	111
オランダ	16	チェコ	2	カメルーン	1	中国	2,532
ドイツ	79	スロバキア	1	ザンビア	2	カンボジア	17
フランス	52	クロアチア	1	コートジボアール	1	ラオス	11
スペイン	11	キルギス	4	モロッコ	1	小計	3,882
ポルトガル	3	リトアニア	1	エチオピア	2	西アジア	
イタリア	18	ベラルーシ	2	南アフリカ	4	パキスタン	3
マルタ	1	アゼルバイジャン	2	マリ	1	インド	23
ギリシャ	2	タジキスタン	1	モザンビーク	1	ネパール	22
オーストリア	2	セルビア・モンテネグロ	1	小計	49	バングラデシュ	21
スイス	7	マケドニア	1	中近東		スリランカ	8
小計	252	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2	イラン	9	ブータン	2
南米		小計	81	トルコ	5	バーレーン	1
ブラジル	18	北米		キプロス	1	オマーン	1
アルゼンチン	8	カナダ	25	シリア	1	小計	81
チリ	3	アメリカ	165	レバノン	1	中米	
ボリビア	1	小計	190	イスラエル	8	メキシコ	18
ペルー	4	大洋州		ヨルダン	4	グアテマラ	1
エクアドル	2	オーストラリア	30	イラク	3	エルサルバドル	1
コロンビア	8	ニュージーランド	9	サウジアラビア	1	ドミニカ共和国	1
ベネズエラ	3	サモア	1	アフガニスタン	4	ホンジュラス	1
小計	47	トンガ	4	イエメン	1	ジャマイカ	1
		小計	44	パレスチナ	1	小計	23
				小計	39	合計	4,688



世界歴史都市連盟加盟都市数の推移





市民・関係団体意見等

オールドカマ - , ニュ - カマ - とともに最も強い要望は , 「年金などの社会保障関係を含め , 行政上の取扱いを日本人と同等にする」である。

(京都市在住外国人意識・実態調査結果から)

学校が , 国際交流を実施するにあたって , どのような手段でおこなっていくのかノウハウ的なものを知りたい。

(京都市内学校・民間団体姉妹都市提携等アンケート調査結果から)

大学から , 行政による留学生宿舎の設置要望がある。

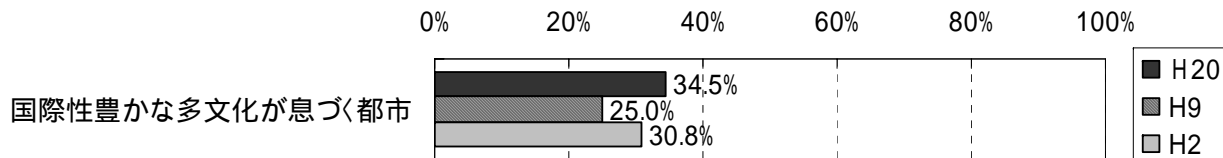
(大学から直接聴取)



市民の声

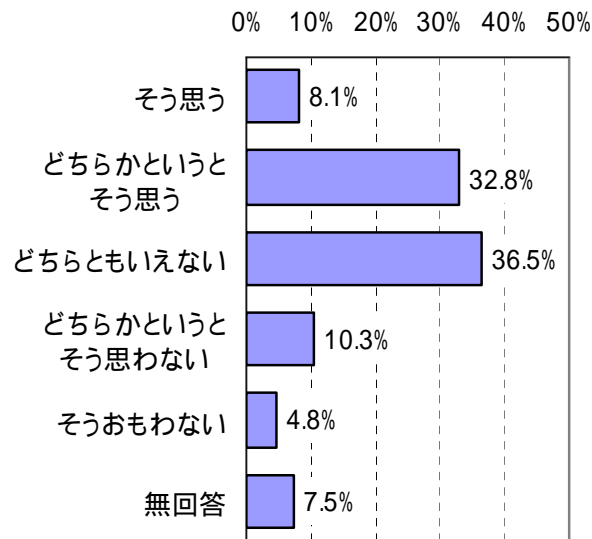
◇ 京都の都市イメージとして、「国際性豊かな多文化が息づく都市」であると思う人の割合が増加 (1万2千人市民アンケート結果)

現在の京都の持つ都市のイメージ (「そう思う」と回答した人の比率)

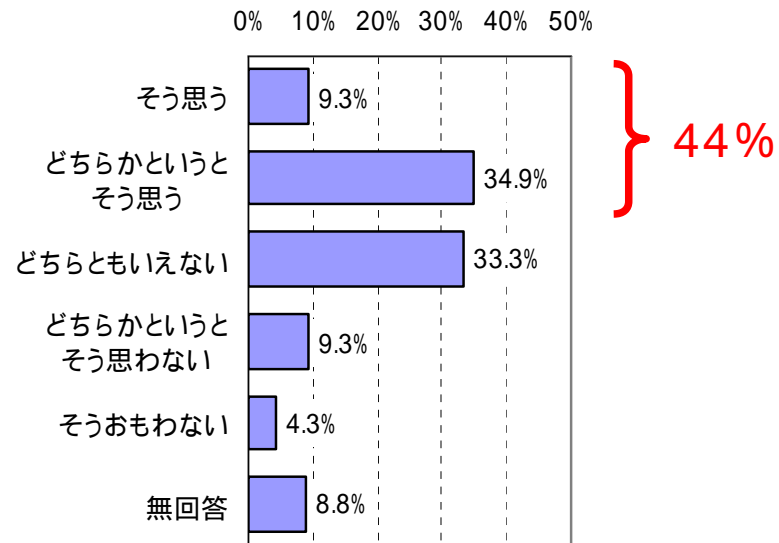


◇ 「京都では市民レベルでの様々な国際交流が盛んである。」と思う人は増加 (京都市市民生活実感調査の経年比較)

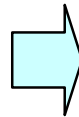
<平成17年度>



<平成21年度>



} 41%



} 44%



各区基本計画策定に当たって現時点で出された課題

南区	<ul style="list-style-type: none">・ 学校同士の国際交流は進んでおり，東九条マダンの交流は盛んで地域の協力もあるが，外国籍市民との交流を進める・ 小中一貫校の開校にあわせた民族学級の充実
伏見区	<ul style="list-style-type: none">・ 向島ニュータウン等における外国籍区民との共存・交流



3 - 2 主な分野別計画の概要

名称	京都市国際化推進プラン
策定年月	2008（平成20）年12月
計画期間・目標年次	2008（平成20）年度～2017（平成29）年度
趣旨	<p>平成9年の「京都市国際化推進大綱」策定から10年が経過し、新たに京都に定住する外国籍市民の増加に伴う言葉や文化の違いに起因する多様な課題の発生や、国際交流・協力分野における自治体の果たす役割の増大など、京都市の国際化を取り巻く環境の変化に適切に対応しながら、本市がこれまで推し進めてきた国際化を一層推進するため策定。</p> <p>今後、京都市における国際化を更に発展させ、京都市が、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的で輝かしい国際都市になるための基本的な考え方や目標を明らかにするとともに、その実現に向けて行政、企業、NPO、市民等が協力して取り組むべき内容について定める。</p>
主要施策と実施状況等	<p>1 世界がときめくまち・京都（86施策）</p> <p>(1)京都が持つ多彩な魅力の向上と発信</p> <p>(2)多様な形での情報発信の強化</p> <p>(3)京都の魅力を認識し、世界に発信する人づくり</p> <p>2 世界とつながるまち・京都（51施策）</p> <p>(1)国際交流・国際協力の中核としての姉妹都市交流の持続的な発展</p> <p>(2)京都の特性を生かした多様な国際交流・協力の推進</p> <p>(3)青少年交流の促進</p> <p>(4) 国際感覚を持った人づくり（地球市民意識の高揚）</p> <p>3 多文化が息づくまち・京都（85施策）</p> <p>(1)コミュニケーション支援</p> <p>(2)生活支援</p> <p>(3)多文化共生の地域づくり</p>
ホームページ	http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000054588.html



3 - 3 融合委員会ワークショップ結果

未来像	重点戦略
開かれた共同が実践されるまち	・国際市場を創設する（ベトナム，フィリピン，コリアン・・・） （多文化共生の拠点とする）